

10 明治・大正・昭和



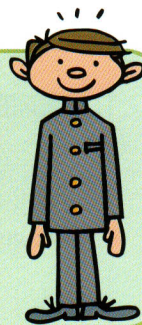
▲郡山市文学資料館



小説

そうなんだ。これは、平成12年にオープンした『こおりやま文学の森』の中にある『郡山市文学資料館』だよ。実は、明治から昭和にかけて、とてもすばらしい作家達が、この郡山市で、生まれたり、育ったりしているんだ。それを、みんなに紹介するために作られたんだよ。

これは、総合体育館のとなりにできた『郡山市文学資料館』だね。郡山市にゆかりのある作家の資料を集めたっていうけれど、いったいどんな作家がいるのかな…？一度、行って見てみたいなあ。



郡山市にゆかりのある作家には、どんな人がいるのだろう。『こおりやま文学の森』を手がかりに、郡山市と関係の深い文学について調べてみよう。

みんなは、郡山市に『久米賞』や『百合子賞』という賞があるのを知っているかな？平成13年で、40回も行われている歴史のある賞だよ。みんなの学校の上級生や友達の中にも、賞をもらった人がいるんじゃないかな。聞いてみてごらん。

実は、この『久米賞・百合子賞』は、郡山市にゆかりのある『久米正雄（くめまさお）』と『宮本百合子（みやもとゆりこ）』という二人の作家にちなんで作られた賞なんだ。この『久米正雄』と『宮本百合子』という二人はどんな作家なんだろう。



▲久米正雄

久米正雄は、長野県で生まれ、その後、開成小、金透小、安積中学（今の安積高校）で学んだ人なんだよ。そうだ、金透小には、『春雪に古（ふ）るは明治の出窓（でまど）かな』[三汀（さんてい）＝久米正雄の俳号]の碑があるから、ぜひ見てごらん。久米正雄は、大学生の時に、開成山の牧場をモデルにして、『牛乳屋の兄弟』という作品で劇作家としてスタートしたんだ。郡山市を舞台にした作品は、他にも『地藏経由来（じぞうきょうゆらい）』や『阿武隈心中（あぶくましんじゅう）』があるんだ。その後、『羅生門』などで有名な芥川龍之介とともに、『吾輩は猫である』などを書いた夏目漱石のもとで作家活動に励んだんだ。特に、『蛍草』や『破船』という作品は有名で、大正時代を代表する作家の一人だ。

また、小説だけでなく、三汀（さんてい）という名前で、たくさんの俳句も作っている人なんだ。一度、久米正雄の作品を読んでみてはどうだろう。

宮本百合子の祖父は、安積開拓で有名な中條政恒だよ。宮本百合子は開成山での体験を『貧しき人々の群』という作品に書き表している。これは、とても有名な作品で、宮本百合子の代表作なんだ。そして、『お久美さんと其の周囲』や『禰宜（ねぎ）様宮田』、『三郎爺』など、開成山を舞台にした、たくさんの作品を出しているよ。戦後も、『播州平野』で郡山市を描いている。宮本百合子は、郡山市を舞台にした作品を数多く出している、昭和を代表する女性作家なんだ。



▲宮本百合子

郡山市の豊かな風土が、二人の有名な作家の作品とも結び付いているんだね。この二人の他にも、郡山市に関係する有名な作家がたくさん出ているんだよ。